

期間が長くなり、また障害者の後見人は常に善人である事の大変さを考える、個人の努力に頼るより、法人としてチームで支えるのがより良い方向ではないかと考えたとのこと。その具体化のため後見センターを設立し、知多半島五市五町からの委託を受けて、地域でのセーフティネットを作り、後見人サポート養成講座、出前講座をされ普及・啓発に取り組んでいると報告されました。

NPO法人宝塚市成年後見センター設立準備委員会代表松井美弥子氏からは、法人後見センターの動き、市町単位での設立の必要、育成会ベースだけだと行政からの補助が引き出せない、他障害者等

(重症心身障害、精神障害、高齢者)も含め関係機関と連携を持ち、利益相反にならない形の後見センター

について、また身上監護に重きを置いた支援をしたいと設立に向けボランティアで準備を進めてきたそうです。運営資金、センターの事業等々の問題はありますが、平成二十一年四月に宝塚市成年後見センターを開設を予定しているとのこと。センターができて、今は行政主導となっているが、育成会として今後、親の立場でどう関わっていくか、引き続き全日本育成会、都道府県育成会の中で役割と課題について検討するよう提起したいと報告されました。

第二回 全日本手をつなぐ育成会リーダーシップ

セミナーに参加して

小泉 いと子

二月二十八日東京千代田区 科学技術館においてのリーダーシップセミナー

ナーに参加しました。午前部の部は「子育て支援・家族支援と育成会活動」と題して、全日本手をつなぐ育成会理事であり明星大学の准教授の吉川かおりさんを始めとして、三人の方が体験談等を中心に講演されました。全日本手をつなぐ育成会では二〇〇八年より「家族支援プロジェクト」がスタートしました。

当プロジェクトの事業

実施の目的は、知的障害者の自立した地域生活及び権利擁護を支えるために、親自身の意識や態度そして対外的な行動をどのように変えたらよいのか? という悩みに応える。また、親自身が自分の人生に障害児の生活・人生をどのようにバランス良く取り込んでいけば良いのか見通しがもてるよう支援をしていく。このように本人が自立した地域生活を営め

ることが家族にとって容易になるよう、大きく寄り添っていきことだと述べられました。

私たちは日常生活のいろいろな面で、がまんを耐えることが多かったが、ただがまんすることだけでなく、親子で節目節目の年齢に目標を立て、目的に向かって生活していく努力が必要だと思いました。

午後の部は「障害者自立支援法の見直しと今後の障害福祉」シンポジストの副島理事長をはじめとする四名と大久保常務理事がコーディネーターとして進行されました。その中で副島理事長が「障害を取り巻く社会環境」と題して講演されました。社会福祉が目指すものは、障害のある人を世間から「排除」するのではなく、地域社会に「包み込む」ことである。また「障害の有無にかかわ

らず、国民全員が相互に人格と個性を尊重しながら、安心して暮らすことのできる地域社会を作ることである」と述べられました。利用者にとって何が必要でないかを見極め、安定した経営を続け、どのようなサービスを受けられるかも選択でき、自由に生活の内容も自分で求められるようなシステム作りを目指し、いろいろな立場の方々と力を合わせ、このような社会環境を実現させていきたいと思えます。

※全日本育成会の理事であり明星大学准教授の吉川かおり先生には、第九回大阪市育成会大会にご参加いただく予定です。

